

佐賀市 38 歴史探訪

とく ぜん いん やま ぶし 徳善院と山伏

頭に兜巾とんじん、首に大数珠おおじゆず、金剛杖こんごうじょうを片手にホラ貝を吹き鳴らす。山伏やまぶしといえばこのようなイメージを思い浮かべるでしょう。現在では間近に接する機会もほとんどありませんが、山伏たちの活動しゆげんを修験しゆげんといい、江戸時代には仏教や神道と並ぶ庶民の重要な信仰の一つでした。

今回紹介する徳善院とくぜんいんは、英彦山ひこさん（福岡県添田町）の山伏たちが、佐賀での活動拠点としたところです。

徳善院は、本庄江川の西岸、嘉瀬町中原にあります。鍋島直茂の祖父にあたる鍋島清久は、英彦山ごんげん権現ごんげんの分霊ぶんれいをこの徳善院に移し、鍋島家の繁栄を願いました。そして、直茂が藩祖となると、徳善院は英彦山権現と鍋島家の仲立ちとなって大いに栄え、藩主の代わりに毎年英彦山権現へお参りしたり、病気回復の祈願しやでんなどを行いました。藩の厚い保護により立派な社殿が整備され、門前には山伏たちのために数多くの宿坊しゆくぼうが並んでいたそうです。

江戸時代を通して栄えた徳善院ですが、明治に入ってからには藩の保護も受けられなくなり、政府により山伏たちの活動も禁止されたことから、徐々にさびれていきました。

現在では社殿も残っていませんし、門前に並んだ宿坊の跡も水田となっています。ただ、初代藩主勝茂の四男、鍋島直弘が寄進した石造りの鳥居は参道に残っていて、その下に立つとホラ貝の音が聞こえるような気がします。



▲現在の徳善院



▲鍋島直弘が寄進した石造りの鳥居



▲英彦山銅鳥居

一口メモ

今の英彦山神宮の表参道には高さ6.9メートルもの巨大な青銅製の「銅鳥居」が立っています。これは鍋島勝茂が英彦山権現に寄進したもので、建立の際には徳善院が英彦山への使者に立っています。また、この鳥居の鑄造は、佐賀藩の御用鑄物師として有名な谷口家が主として行いました。英彦山に登る機会がありましたら、ぜひご覧になってください。

